２０２５年（令和７年）

登録電気工事基幹技能者　認定講習

試　験　問　題

一般社団法人　日本電設工業協会

●解答は全て解答用紙に記入して下さい。

問題１　現場管理業務において登録電気工事基幹技能者の役割分担の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．施工図・施工要領書の作業員への周知と技能指導・チェック

２．安全衛生協議会への出席とその内容の伝達周知

３．総合工程表、月間工程表、週間工程表の作成と調整

４．施工図・施工要領書の作成・説明と管理

５．主要資材の仕様確認協議と製作図の確認・承諾業務

問題２　近年の銅ベースの高騰、作業員の高齢化等といった問題から新材料・新工法が考案されております。その中で低圧電路において銅導体に代わり、軽量で経済性も有利であることから見直された導体を使用した新工法が開発されています。その新工法に使用されている導体で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．鉄

２．銀

３．アルミ

４．ニッケル

５．金

問題３　0JT を効果的に行うための話し方において心がけておくことの記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．元気な声ではっきり話し、相手の目を見て表情を読む。

２．目標をはっきり示し、何をするのか明確にする。

３．電気の専門性を高めることで、相手の好意が高まり、話力も磨かれる。

４．聞こえてくるものを漫然と聞き、言いたいことを言う。

５．「程度」、「推測」の表現は気をつけ、「数字」、「データ」を用いて話をする。

問題４　施工計画書の記述で、**もっとも不適当**なものを選び、その番号に〇をつけなさい。

１．施工要領書は、個々の現場に応じて作成するのではなく、どの現場でも使用できるもので施工者に大きな利益をもたらすものである。

２．施工計画書には着工時に作成する総合施工計画書と、工事の進行に合わせ作成する工種別施工計画書がある。

３．総合施工計画書は請負者が工事全般について、工事の基本事項や工事着手前にたてた施工計画をまとめた書類である。

４．総合施工計画書には一般的に次のような項目などが記載される。
①　工事概要、②総合工程表、③工程管理計画、④品質管理計画

５．建設現場での作業は、施工品質を確保し、向上させるためには、可能な範囲で作業の標準化を図る必要があり、この標準化した作業内容を文書化したものが作業標準書である。

問題５　登録電気工事基幹技能者の事務管理の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．協力業者や他職との打合せ内容は、必ず打合せ議事録に残し、纏めて技術者に報告する。

２．作業日報は翌日に行なう作業内容のみを記載する。安全対策は朝礼時に周知する。

３．作業員名簿のチェック時の留意点で、健康診断日は入所日から、6ヶ月以内か確認が必要である。

４．パワーカッターやトーチランプのような火花および生火が発生する場合は火気使用願いを必ず提出する。

５．再下請通知書（変更届）は、二次下請負業者以降、纏めて作成することができる。

問題６ 原価管理の重要性の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１． 作業員に対しては、その日の仕事量を把握し計画的に人員を割振り、労務費の予算超過を防ぐようにする。

２．材料の選定に対しては、施工方法をよく検討し、出来るだけ安価な物を必要な時に１回でまとめて搬入する。

３．電気工事の作業工程にしわ寄せや無駄な手持ちを発生させないように工程管理を行う。

４．施工状況を常時チェックして、手戻り・手直しがないように毎日の現場における施工品質管理を行う。

５．建設業は、一件として同じものがなく、受注産業であり原価管理は、現場単位で行う。

問題７　電気工事業法において、電気工事業者はその営業所ごとに電気工事の検査に必要な器具を備えなければならないと定められているが、次の記載で**備えの義務がないもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．抵抗及び交流電圧を測定できる回路計

２．接地抵抗計

３．低圧検電器

４．高圧検電器

５．検相器

問題８　工程管理の内、日程計画（工期内に工事を完成させる計画）の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．日程計画は、どの作業にどれだけの日数をかけることができるのかを作業の前後関係などを考慮して計画する。

２．日程計画は、所定の作業に対し先行して行わなければならない作業は何か？を検討して計画する。

３．各作業間の相互関係よりも、自ら係わる作業を優先的に計画する。

４．工期内に効率的に納まるように修正して工程表を作成する。

５．見積った日数を集計して、総工事量と完了する日数を算出する。

問題９　【資材管理は適正な品質の資材を「予算管理された（ア）」で発注し、「必要とする（イ）」を順序よく定められた場所へ（ウ）し「確実な（エ）管理」を行い、（オ）工程等を円滑に進めることに意義がある。】上記の記述中の（ア～オ）に当てはまる組合せとして、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
１．	値段	数量	搬出	保管	進捗
２．	価値	数量	移動	保守	モノ決め
３．	価格	数量	搬入	保管	作業
４．	料金	数字	搬入	保全	準備
５．	価格	数値	搬出	保管	作業

問題 10　建設業法に係わる関係書類の作成及び保存の記述で、**保存の義務がないもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．施工体制台帳

２．発注者との打合せ記録

３．完成図

４．工事請負契約書

５．見積書

問題 11　労働基準法の遵守事項の記述で、**誤っているもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．労働者の国籍、信条、又は社会的身分を理由として労働条件を差別してはならない。

２．労働者が女性であることを理由として男性と賃金に差をつけてはならない。

３．未成年者は、独立して賃金を請求することができる。

４．毎週 1 回又は 4 週間を通じて 4 日以上の休日を与えなければならない。

５．労働者が業務上負傷し、又は疾病にかかった場合においては、労働者がその費用で必要な療養を行い、又は必要な療養の費用を負担しなければならない。

問題 12　工程内検査の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．電気設備は、施工の進捗に従って、施工したものが隠ぺいされていくが、最終段階で不適合が見つかり、手直しのため建築の仕上げを壊すのはやむをえない。

２．隠ぺい配管・配線終了時、電線の接続終了時など、一つの工程（プロセス）が終了するごとに検査及び試験を行い、合格であることを確認し、試験記録・写真を残すことが必要となる。

３．施工段階で不適合を発見したときは、最終段階でまとめて手直しをする方が効率的で良い。

４．接地極埋設の施工において、接地抵抗値の測定は、埋設時ではなく受電前検査時に行う。

５．隠ぺい部配管・配線（天井）の施工において、不適合と指摘されたら、天井点検口から直せる範囲で直す。

問題 13　建設副産物の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

１．工事現場から搬出される建設発生土、コンクリート塊、アスファルト等は建設副産物には該当せず適正な処分を行う必要がある。

２．建設副産物は、そのほとんどが再利用不可のものである。

３．建設副産物の発生量を抑制するためには、経済性を重視することは当然であり、いかなる場合でも優先する。

４．建設副産物を混合して搬出することを推奨している。

５．建設副産物は、発生の抑制、再生利用の促進、適正処分の徹底を 3 本柱として、関係者がそれぞれの責務を分担し、着実に実施していくことが重要である。

問題 14　施工計画の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

１．施工管理の目的としては、適切な品質（品質管理）・適切な工期（工程管理）の 2 つが重要な項目である。

２．施工管理項目の目標を達成するためには、工事による環境への影響を最小限にする環境管理も重要な業務である。

３．品質管理・工程管理・原価管理を施工管理における三大管理という。

４．資材費などの原価の支出をおさえることで、利益を出すことが最も重要な施工管理のポイントである。

５．施工管理のポイントは、品質・工程・安全の関係の調整を常に図りながら、工期内に工事を運営することである。

問題 15　あなたが申込時において申請した業種で「実務経験証明書」の職長欄に「職長」と記載した工事の中で、職長の実務として実施してきた**安全管理**について、次の問に答えなさい。

１．工事名称

２．上記工事で具体的に実施した安全管理の事例を４つ述べなさい。

①

②

③

④

３．上記の安全管理の事例で行った理由を、それぞれ具体的に１つずつ述べなさい。

①

②

③

④

４．その安全管理を行ったことで、特に効果があった点を２つ述べなさい。

①

②

2025年 登録電気工事基幹技能者 認定講習 修了試験問題解答と合格基準

2025.11.18　作成

一般社団法人 日本電設工業協会

登録電気工事基幹技能者 認定専門委員会

2025年 登録電気工事基幹技能者 認定講習は、(一社) 日本電設工業協会の9支部及び6都道府県協会によって、15会場で開催され、講習終了後に修了試験が実施された。今年度の受講申込者は600名であり、そのうち受講(受験)者は、580名で内合格者は、573名(合格率98.8%)であった。
以下、2025年の修了試験問題の概要と解答及び合格基準を示す。

Ⅰ　2025年 登録電気工事基幹技能者 認定講習 修了試験

1　試験問題の内容と構成

1) 出題基準

・職長として、施工現場で行った采配の記述（小問題4問）　1問題
・認定講習内容及び読本からの出題、択一式　14問題

2) 出題内容と構成

・問題　1　登録基幹技能者の役割分担に関する問題
・問題　2　新工法の技術(導体の種類)に関する問題
・問題　3　OJTの話し方に関する問題
・問題　4　施工計画に関する問題
・問題　5　事務管理に関する問題
・問題　6　原価管理に関する問題
・問題　7　電気工事業法の問題
・問題　8　工程管理の日程計画に関する問題
・問題　9　資材管理に関する問題
・問題１０　建設業法に係わる書類作成・保存に関する問題
・問題１１　労働基準法の遵守事項に関する問題
・問題１２　工程内検査に関する問題
・問題１３　建設副産物に関する問題
・問題１４　施工計画に関する問題
・問題１５　受講申込時の「実務経験証明書」の「職長欄」に職長と記載した工事で「安全管理」について記述する問題

2　試験問題の正解と配点

	正解	配点
問題　1	1	5
問題　2	3	5
問題　3	4	5

問題　４	１	５
問題　５	４	５
問題　６	２	５
問題　７	５	５
問題　８	３	５
問題　９	３	５
問題１０	５	５
問題１１	５	５
問題１２	２	５
問題１３	５	５
問題１４	２	５
問題１５	－	３０

３　具体的評価

１）択一問題の評価基準

①問題１から問題14は、１問正解につき各５点とする。

②各問題の不正解と､1問題で2つ以上の○印のついた解答は0点とする。

２）記述問題の評価基準

記述問題 15 は、受講申込時の実務経験証明書に記載された現場で「職長」としての業務内容の記述により判断する。

３）記述問題の配点と採点基準

①　配点

問1、問4､・・・各5点、　問2、問3・・・各10点

②　採点

問1において「実務経験証明書」の「職長欄」に職長と記載された工事において、職長の立場で行った業務内容を問う問題であるため工事名称が正しく書かれていることを基本とする。

従って、問 1 で「実務経験証明書」の「職長欄」に「職長」と書かれた工事名称が正確に記載された者には 5 点を、そうでない者には 0 点とする。

問2･問3は記載内容により 0～10 点とし､問4は0～5点を配点する。

また、問1を5点取得した者は、問2以降を記述内容により通常に採点を行うが、問1が0点の者は、配点の 1/2 を満点として採点する。

Ⅱ　登録電気工事基幹技能者 認定講習修了試験の合格基準

登録電気工事基幹技能者認定講習修了試験において、100 点満点で 60 点以上を取得した者を合格者とする。

以　上